



クローズアップ
CLOSE UP

力合わせて祭り盛大に

10月7日・8日に前橋まつりを開催。5年ぶりにコロナ前と同規模で実施し、息の合った演奏や威勢の良い掛け声で会場は熱気に包まれました。八木節では、団体の呼び掛けで見物客も参加し、踊りの輪が広がっていく場面も。待ち望んだ通常開催の祭りに笑顔があふれました。



共生する社会目指して

9月23日に道の駅まえばし赤城でまえばしインクルーシブスポーツフェスタを開催。年齢や性別、障害の有無に関わらず、誰もが楽しめるスポーツを実施しました。点字ブロックリレーやポッチャ、盲導犬に関するトークなどを交えながら共生社会について考えました。



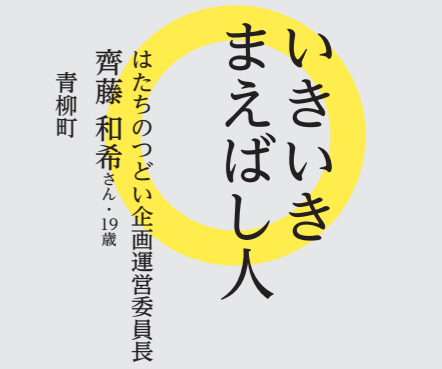
刺しゅうを超えた世界

前橋文学館で新収蔵資料展「朔太郎を刺繍す ティム・サトミ」を12月24日(日)まで開催中。刺しゅう作家のティム・サトミさんから寄贈された「朔太郎を刺繍す」シリーズ18作品と共に、モチーフになった朔太郎の詩に関連する自筆原稿などを公開しています。

「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、式典が1部制に戻り、マスクを付けなくても参加できるようにします。集まった人たちの思い出に残るような式典にしたいと考え、いろいろな企画を市内の各中学校の卒業生で構成する委員会のメンバーと考えています」

「私たちの年代はコロナ禍で高校生の時に体育祭や文化祭、修学旅行などいろいろな経験や、社会や地域との交流活動ができていない状況でした。また、いつもマスクを着けていたことで口が写らず友人との笑顔の写真や楽しい思い出を残すことができなかった。このように思い出を残せるようにフォトスポットを計画。市内企業との交流なども絡めて実施したいと考えています。また、式典でも地元企業とのコラボ企画なども考えています」と話す。大学でも友人や地域、地元企業とのつながりにとどまらず、多文化共生社会を目指し、高校生と県内に住む外国人とをつなげる企画を自ら立ち上げるなど、国際交流の活動にも積極的だ。齊藤さんの多文化共生や共生社会の橋渡しとしての活動は続く。

さまざまなつながりを形に



「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、式典が1部制に戻り、マスクを付けなくても参加できるようにします。集まった人たちの思い出に残るような式典にしたいと考え、いろいろな企画を市内の各中学校の卒業生で構成する委員会のメンバーと考えています」

「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、式典が1部制に戻り、マスクを付けなくても参加できるようにします。集まった人たちの思い出に残るような式典にしたいと考え、いろいろな企画を市内の各中学校の卒業生で構成する委員会のメンバーと考えています」



【Vol.4】チッタスロー教育
固 観光政策課
☎ 027-257-0675

